

図書館リニューアル市民委員会 第0回オリエンテーション 車座談義 概要

○日時 2020年9月12日(土) 10時～

arg) この地域に必要なものは一体なのかを考えていくことが大切。宇部らしいものは何かを考えていくことがこの委員会では重要になってくるのでは。

委員) 宇部の図書館は美術本が多い理由は？

図) 大型美術本のコーナーが閲覧室に入ってすぐのところにある。これは毎年、宇部興産から多額の寄付をいただいた中から購入し、蔵書しているもの。文化に力を入れている特徴の一つ。

委員) 宇部市立図書館の特徴は？

図) 「緑と花と彫刻のまち・宇部」にふさわしい図書館。その一つとして、館内外に彫刻を15点設置している。

arg) 宇部興産という大企業があるのも特徴として考えられる。地域特性と言えば、宮城県気仙沼市の図書館でも、水産業の会社がお金を出し合い、水産に関する本をそろえている。岐阜県多治見市は、日本のタイルの約90%を製造しており、図書館に陶磁器に関する2万冊の蔵書があるので、全国から陶芸作家が訪れるなど、地域の活性化にも繋がっている。

宇部でも、彫刻はアートの一大領域で魅力にもなり、交通アクセスがいいのも利点。宇部市でもアーティスト・イン・レジデンスのような活動と図書館を繋げていくと面白いのでは。

委員) 読者のまちづくりを掲げるのに、そのことから、偉大な人材が輩出されたら面白いと思う。宇部出身の著名人は結構いるのでは。

図) 宇部市出身のカリスマ経営者、柳井会長がまだ宇部市の銀天街で紳士服の店舗を運営されていたユニクロ創生期に、宇部市の書店で手にされた一冊の本「プロフェッショナルマネジャー」、この本を何度も読まれ、「ユニクロ幻のバイブル」とまで言われている。柳井会長は大変な読書家で、特にドラッカーに心酔され、「いい商品を安く多くのお客様に提供する」の経営哲学のもと、ユニクロをグローバル企業にまで発展させられた。会社内にも図書館を設置され、社員にも読書を推奨されている。このような話もアピールできると思う。

arg) 宇部市は本当に多様な人材を輩出している。これも大きな特徴である。

委員) 読書は書籍だけでは無い。本を読むのが難しい人もおり、多様なオーディオソースなども有効だと思う。

arg) そのような多様な利用者に配慮した観点から考えることもいい図書館になるのでは。読書バリアフリー法も制定され、電子書籍には読み上げ機能もある。

図) 電子図書館は、全国的にも増えており、コロナ禍への対応の他、多様なニーズに対応した読書機会を提供するため、導入することとした。

arg) これまでの経験から感じていることだが、市民の多数が望む事は大概できる。電子図書館サービスは、Kindleに比べて数量は少ないが、インターネットの仕組みではほぼできない事は無い。図書館のサービスでも望めば実現できるもの。

委員) 子供たちの読み聞かせをやっているが、子供たちは、電子書籍より読み聞かせなども必要。小学生の時には紙の本に触れることが必要ではないか。

arg) 対象者によってどのようなサービスを提供するのも重要なこと。実は技術は弱者を救うこともある。テキストの自動読み上げ機能を使えば、視覚障害者にとっては世界が広がる。

全盲の方で大学の先生をやっている人など、健常者と対等に渡り合えている人もいる。新しい技術を活用していくことも大切。宇部市が炭鉱の町からうまく発展していったのは、先人たちの力も大きい。あれもこれも考え、最終的に何を選択するのかということが大事。

委員) 国立国会図書館を利用することがあるが、もっと気軽に利用できないかを感じる。

arg) 現在のコロナ禍において、国においても検討されている。

委員) 市民サービスの観点から、図書館職員の力が重要。職員の削減をして欲しくない。小さな子供を対象としたお勧め本リストなどもあるといい。

委員) 子供たちが楽しんで絵本に触れるような環境はとても大事。今後いろいろな媒体を使った提供方法が考えられる。デジタルの世界での可能性は大きい。視覚障害者にとっては、音訳がとても大事。視覚障害者の方に本を読むボランティアの活動をしているが、雑誌を読むような活動があるといい。

図) ボランティア団体の方の意見なども聞いてしっかりと対応していきたい。

委員) CD の小説や落語があるけど、知らない人も多いのではないか。どのような本を充実させるか、ターゲットをどこにしていくなかが大事だと思う。

arg) (第一回市民委員会の進行を説明)